

## 海外留学の成果報告

福井大学  
工学部4年

宮崎 智広

留学先 **アメリカ合衆国**  
(ニューヨーク州)

留学期間 平成29年8月21日  
～平成29年9月23日



北陸銀行ニューヨーク駐在員事務所 清水所長と

### 支援企業

前田工織株式会社

### 担当者

人材開発部 千秋明博

### 担当者から一言

海外留学による語学力の向上は勿論、他国の留学生との交流・合気道を通じた日本文化発信への挑戦、および現地法人でのインターンシップ体験等を通じ、視野も大きく広がったと思います。今回の体験は、今後の成長に大きく寄与するものと確信しております。



ニューヨーク合気会の門下生と

### ①留学をしようと思った動機

私は福井県で生まれ、県内の大学に通っていたこともあってか、ごく自然に福井に貢献できる人材になりたいと考えてようになっていました。しかし、現代社会において企業には県内だけで完結するような仕事はほとんどなく、日本全体、そして世界とつながっていることが常識です。その中で活躍できる人材になるためには、高い語学力はもちろんですが、海外で働くことや外国の方とのコミュニケーションに抵抗をなくすことが必要であると感じ、留学を希望しました。

### ②留学の内容および成果

留学先のニューヨークでは、支援企業の前田工織(株)に協力していただき、(株)北陸銀行ニューヨーク駐在員事務所においてインターンシップを受入れてもらいました。インターンシップでは現地の取引企業に対するサポート業務などを勉強させていただくとともに、アメリカの経済情勢などについても深く教えていただきました。また、語学学校にも通い、英語の授業を受講することで英語能力の向上を目指すとともに、様々な国から来た他の留学生との交流を図りました。

インターンシップの事務所では、取引企業（現地邦人）のサポートなど一般にイメージされる銀行の業務とは異なる仕事を行っており、海外でどのようなサポートを受けられるか把握することができました。また、インターンシップ中に教わったアメリカの情報は私がこれからのアメリカの情勢を知るきっかけになりました。来年度社会人になりますが、海外展開を進めていくときに、今回の経験が生きてくると考えています。

語学学校では授業がすべて英語で行われていたり、語学学校が大学の敷地内に位置しているため、その大学生とも交流する機会がありました。常に周りで英語を聞き続ける環境が出来上がっており、私の英語の習得に大いに役立ったと思っています。また上記のように、他の留学生は非常に多国籍な顔ぶれであり、異文化交流と理解につながりました。

また、留学全体を通して学んだことがあります。それは、人に興味を持ってほしい、仲良くなりたいと思うなら自分が先に相手に近付くことが重要だということです。私は今回の留学で日本文化の発信もしようと考えて、留学先で知り合った人たちに日本固有の武道である合気道を知り、そして体験してもらおうとしました。その下準備のためにマンハッタンにあるニューヨーク合気会という道場に初めて訪れました。そこでは拙い英語しか話すことができないということもあり、道場の人たちに話しかけることができず、かといって相手から話しかけられることも少ない状況で、特に話すこともないまま初回の訪問を終え、焦りを覚えていました。しかし次回以降はこちらから積極的に話しかけることを心がけたところ、相手から声をかけられることが多くなり、コミュニケーションの壁が一気に取り払われたように感じたのを今でも強く覚えています。それに加え、拙い英語でも、こちらがうまく聞き取れなくても、伝えようとする意志があれば相手もそれに応じてくれることが分かり、外国の方とのコミュニケーションに抵抗はかなり少なくなったと思います。



マンハッタン6th Ave.の「LOVE」